

(令和7年度) 自己評価書		園番号	園名	704奈良市立都跡こども園				
		704	奈良市立都跡こども園					
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅰ 教育・保育活動に関するもの	(１) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	・全職員が共通理解し、具体的な取り組みに繋がる目標を設定する。 ・目標達成のために、子どもの遊びや生活する姿を見通して、計画を作成する。 ・保護者アンケートや学校評議員などの評価から教育保育活動の評価を検証する。	・教育目標に向け、研究主題を設定し子ども主体の遊びを大切に日々取り組んだ。子ども達は自ら遊びを創りだし意欲的に活動する姿につながった。 ・クラス便りや学級懇談会、園懇談会等で、園の教育方針や取り組みを知らせ、個人懇談、日々の送迎時などでも、保護者からの意見も聞くように心がけた。保護者アンケートによる園評価では、どの項目においても高評価を得た。	A	A	・保護者アンケートの項目は、いずれもA,Bの高評価（全体の95%以上）で、園教育・保育に理解と支持を得た。 ・遊びの時間の保障をすることで教育目標に近付いた。	・保護者アンケートで出た意見を受け止め、改善できる方法を職員間で話し合い、より質の高い教育・保育を提供することを目指す。 ・今年度に出た教育活動での反省や課題を来年度に見直し、つなげていく。
		② 教育・保育計画の作成			A			
		③ 教育課程/全体的な計画の編成			B			
		④ 教育・保育活動の評価			A			
	(２) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	・奈良市立こども園カリキュラム バンビーノ・プランを基に実際の子どもの姿から園の指導計画を立案し、年齢やその時期に応じた指導内容を考え、子どもの育ちを見取っていく。 ・日々の子どもの姿を保育者間で話し合い、研究主題の「自ら遊びを創る子どもを育む ～子どもの育ちや学びから要因を探る～」について取り組んでいく。	・保育の記録を丁寧にとり、分析することにより、一人一人の思いや、興味を持ったことに寄り添い、子ども理解に努めた。 ・園内公開保育や事例研修、1枚の写真を用いて等、職員で語り合い、子どもが自ら遊びを創る要因が何であったかを追究することができた。また、保育者の援助や環境、発達段階をにに応じた保育者の関わりについても話し合い実践する中で、一人一人が保育を振り返りながら、次の指導計画や保育内容につなげていくことができた。	A	A	・全職員が、子どもの遊ぶ姿の見取りを丁寧に行之い、分析し、援助を工夫してきたことで、様々なことを明らかにし、子どもたちの成長につなげることができた。	・保育者がより探求心をもって子どもの姿を見取り、必要な援助や環境について考えられるよう、継続した振り返りや見直しを行う。 ・実際の姿を捉え、次年度に活かす指導計画が立案できるようにする。
		② 保育内容の精選			B			
		③ 指導方法の工夫改善			B			
		④ 評価			A			
	(３) 園行事	① 指導計画の立案	・子ども達が主体的に活動し、心とからだが豊かになるように取り組む過程を大切にする。 ・遊びと行事を繋げた保育内容の創造に努める。 ・行事の内容や方法を考え、安心・安全に実施する。	・行事の方法を探り、5歳児が3歳児とふれあったり教えてあげたりする中で、異年齢児とのつながりも自然にできてきた。 ・子ども達にとって有意義で充実した活動となるように、遊びや生活と行事を切り離さないように意識して進めていき、クラスや学年などで一緒に取り組むことができた。 ・保護者や地域の方にも理解や協力を得て、今できることを考え実施できた。	A	A	・子どもにとって、より良い方法を考えて進めることで、自然な異年齢との関わりが増えてきている。保護者アンケートや行事後の保護者の感想では、子どもたちが主体的に取り組んでいる姿に高評価を得た。	・今年度の反省から、さらに行事の精選と見直しを心がけ、子どもにとってより生活が充実したものとなるようにする。 ・行事以外でも子どもの様子をどのように発信していくのか(ホームページの活用等)模索し続けていく。
		② 行事内容の精選			B			
	(４) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・保育者自身が人権感覚を磨き、日々の保育の中で命の尊さや、一人一人が大切な存在であることを伝え指導していく。 ・様々な人との関わりにより、豊かな心が育まれるような保育内容の充実を図る。	・子どもの実態や生活背景を把握し、一人一人の子どもをありのまま受け止め、互いの良さを認め合えるような取り組みを進めた。困っている友達に声をかけに行く姿や手を差し伸べる姿がたくさん見られるようになってきた。	A	B	・日々の友達との生活や様々な人とのかかわりの中で、相手を思う気持ちが育ってきている。 ・職員間で情報交換をしながら、連携して問題に取り組むことができた。	・子どもの人権を大切にし、一人一人が大切な存在であるということを基に、職員の人権感覚をさらに磨いていく。 ・互いに認め合い育ち合いができる取り組みを進める。
		② 保育内容の精選			B			
		③ 指導方法の工夫改善			B			
	(５) 生徒指導	① 組織的な指導	・報告・連絡・相談を綿密に行う。 ・一人一人の子どもや保護者の思いに寄り添う。 ・家庭との連携を図る。 ・適切に実態を把握し、必要な場合は関係機関に連絡する。	・全職員で連携を図り、各クラスの状況を共有してきた。一人一人を理解し、良さを引き出すよう、きめ細かい指導に努めた。 ・保護者とも丁寧に関わっていき関係づくりに努め、悩みなども話していただけるようになっている。 ・関係機関とも情報交換等を行い、子どもの様子を見守った。	B	A	・素早い対応、組織的な対応、職員間の連携が奏功している。 ・常に保護者と連携し、個々の子どもについて情報を共有している。	・保護者との信頼関係を構築するために、今後もコミュニケーションをとっていく。 ・アンケートの中に、降園時に子どもの様子をもう少し聞きたいのご意見もいただいた。今後もどの保護者にも伝えることが出来るように努めていきたい。
		② 教育相談・こども理解			A			
		③ 家庭との連携			A			
		④ 関係諸機関との連携			A			
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である ・日頃より実態把握・早期発見に努めている ・各学級の状況を園組織として共有できている ・保護者や地域と連携できている ・組織的に迅速に対応する体制が整備されている	・日頃より、職員間で情報を出し合い、一人一人の実態把握に努め、子どもの変化に気づき早期発見につながるようにしてきた。 ・保護者や地域の方々、関係機関との連携を密にし、個々に応じた対応を心がけてきた。	A		・指導計画に人とのかかわりを位置付けている。 ・子どもの様子について職員間で常に情報交換し、気になる実態について複数の職員で確認したり、保護者や関係機関との連携等迅速に対応する努力をしてきた。	・子どもの小さな発信やいつもと違う表情などを見逃さず、気になることがあれば、職員間で話し合う。 ・各学級の実態を職員間で共有し園内の連携を深め、組織的な対応を行っていく。 ・園全体で子ども・家庭を見守っていく。
					B			
					B			
					A			
					B			
	(６) 特別支援教育	① 推進体制	・一人一人を観察し、課題を明らかにして、具体的な指導方法を共通理解し取り組む。 ・特別支援員同士と一緒に話し合える会議を定期的にもち、悩みを出し合いながら子どもの手立てについて語り合えるようにする。 ・保護者と連携し、成長していく子どもの姿を共に見守り、集団の中で一人一人の力を発揮できるようにする。 ・関係機関との連携を密にして、子ども理解に務める。	・特別支援を要する子どもに全職員で関わることができるよう努めた。また、学年ごとの会議をもつことで、情報共有や手立てについて具体的に話し合えることができた。 ・個別指導計画を立てて取り組んできたが、職員間で共有する時間の確保が難しかった。 ・視覚支援やユニバーサルデザインを取り入れ、わかりやすい保育を心がけた。 ・関係機関の相談員による子ども理解の研修の実施、関係機関との連携により、指導方法を改善し、実施してきた。	A	B	・個々の課題を共有し、全職員で関わっていく体制をとっている。 ・担任と特別支援教育支援員、特別支援コーディネーターが連携し、それぞれの発達に合った関わり方を検討しながら進めていった。 ・子ども発達センター、教育相談課、保護者と連携を図り、個々に応じた支援ができるようにしてきた。 ・研修の機会を保障し学び続ける体制づくりに努めた。	・保護者と子どもの課題について丁寧に話し合い、共に進めていく。 ・関係機関との連携をさらに強化し、一人一人に合った集団における個別の対応を図っていく。 ・支援が必要な子どもには、職員間で同じ支援が行えるよう、また小学校へつなげるように『個別的教育支援計画』を作成する。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容			B			
		③ 指導方法の工夫改善			B			
		④ 家庭との連携			A			
		⑤ 関係機関との連携			A			

(令和7年度) 自己評価書		園番号	園名		704奈良市立都跡こども園									
		704	奈良市立都跡こども園											
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題及び改善方策					
						B	B							
							B							
							A							
							B							
							B							
							A							
							A							
							A							
	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	・園経営の方針を示し、園教育ビジョンを設定し、リーダーシップを発揮する。 ・職員の自発性や創造性を促しながら、適切な指導助言を行い、個々の職員の能力を十分に発揮させるための園内組織を編成する。 ・職員との信頼関係を密にし、風通しの良い職場環境を作る。 ・学校関係者評価、保護者アンケートを実施する。	・園方針に基づき、遊びの重要性和幼児期につけたい力を明確にし、保育の方向性を明らかにすることができた。 ・園教育目標、研究主題について職員会議、研修での共通理解を図り、目標に向かって保育を推進することができた。 ・職員に、こまめに話しかけ何気ない会話を大切にしてきた。 ・保護者アンケート実施により、園教育・保育の成果と課題を明らかにすることができた。	B	B	・職員が子どもの実態を把握し、園教育目標、研究主題を意識して、日々の保育にあたっている。 ・職員がそれぞれの立場で、力を発揮し、園教育・保育を推進することができた。 ・各係や研究主任は、自分の立場を自覚し、他の職員に声掛けをしたり、互いに学ぼうとしたりする意識の向上が見られている。	・職員間の報告・連絡・相談・確認をさらに密にし、連携・協働体制を強化する。 ・さらに個々の職員が、自分の立場と役割を自覚して園運営に携わることができるようにしていく。						
		② 園経営目標・方針			B									
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			A									
		④ 園務分掌等の連携			B									
		⑤ 会議の運営と位置づけ			B									
		⑥ 会議の結果			A									
		⑦ 職場の人間関係			A									
		⑧ 園評価の実施			A									
		(2) 研究・研修			① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施				・園研究主題を設定し、保育研究、実践する。 ・園内公開保育研修を年6回実施。副園長や研究主任が中心になって保育カンファレンスをし、他職員が記録をしまとめる。 ・園内研修・園内研究の場で気軽に子どもの姿を話し合うようにする。 ・他園の公開保育や園外研修、リモートでの研修に参加し、学んだことを報告する。 ・でいあシートやドキュメントなど、写真を見ながら自ら遊びを創り出す要因を探る。	・年間計画に沿って各担任が必ず1回、園内公開保育を実施し、園研究主題の子どもが自ら遊びを創り出す要因を探ったり、保育者の援助や環境について見直したりすることができた。 ・リモートでの研修については、複数人で研修を聞くことで終了後考えを伝える等して共有することができた。 ・園内研究会や園内研修を行い、職員間で話し合い、子ども理解を深めることができた。 ・研修の資料なども回覧し、共有できるようにした。	A	A	・園内公開保育研修を年間計画に沿って実施することで、保育改善につながる実践となった。 ・話し合いを積み重ねる中で、子どもの姿から保育者の関わりの重要性や遊びへの理解が深まりつつある。 ・リモート研修では、複数人で参加できた。対面研修では、他園の職員と情報交換をしたり子どもの姿の学びを共有したりとして、資質向上につながった。	・園外の研修の報告・伝達の時間を確保し、全職員が学びを共有できるように工夫すると共に、職員が自ら研修へ参加する意識が高まるようにする。 ・園内研修において研究主任が主となり、職員が活発な意見交換をして主体的に学び合う方法を今後も模索し実践していく。
	② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施		B											
	③ 園外の研修への積極的参加		A											
	④ 園外研修内容の共有		B											
	⑤ 研修成果の普及		B											
	(3) 安全管理		① 安全計画の立案	・安全計画、防災計画を作成し、迅速かつ適切な対応ができるよう、緊急時の連絡体制を整える。 ・月1回、會津保育園と一緒に避難訓練をする。 ・危機管理体制の整備の充実。 ・一人一人の危険認知力を高め、改善点を出し合い優先順位をつけ取り組んでいく。 ・安全指導の工夫改善の実施。 ・コドモンを活用し、園と家庭との連携を図っていく。	・様々な状況を想定して、毎月避難訓練を実施し振り返り、課題解決に向け話し合い進めてきた。 ・日々の欠席状況の確認及び保護者への連絡の徹底等、「報連相」を行っていくようにし危機管理意識を高めるようにした。 ・夏期休業中にて洗い場や2階の廊下の隙間などの修繕を行ったり、課に相談し修繕していただくことができた。 ・保護者との引き渡し訓練を実施し、啓発を行った。	A	B	・毎月の避難訓練により、職員や子どもたちに防災に対する意識が高まってきている。 ・出席状況を複数人で確認し、危機管理意識をもち、職員間で連絡を取り合うように心がけた。 ・オンデマンドの研修を受け、園での計画を見直したり、職員へ共有したりすることができた。			・引き続きAEDや救命救急研修を実施し、職員の初期対応力や危機管理意識をさらに高めていけるようにする。 ・避難訓練ではあらゆる状況を想定する等、どんな場面でも臨機応変に対応できるよう、常に高い意識をもって保育をする。 ・事故防止に向け、気づきや知識など互いに意識・確認し合えるようにする。			
			② 防災計画の立案			A								
			③ 危機管理体制の整備			A								
			④ 安全指導の工夫改善			B								
		⑤ 家庭との連携	B											
		⑥ 関係機関との連携	A											
(4) 保健管理		① 保健計画の立案	・年間計画を作成し、実践する。 ・保健・健康に関する情報は、紙面やコドモンで保護者に知らせ、予防に努めてもらえるようにする。 ・食育を通して、健康な体づくりを推進する。 ・アレルギー対応児や熱性けいれん、既往歴のある子どもについて、職員間で共通理解し対応についてなど確認していく。 ・園医、薬剤師との連携による衛生管理を行う。			・エビペンの研修は、今年度異動してきた職員が参加し学ぶことが出来た。また、心肺蘇生法についても園に講師（中学校長）を招き、実践研修することができた。 ・感染症の流行時には、対策方法や注意喚起を保護者に知らせてきた。 ・手洗い、うがいの励行、換気の徹底を実施した。 ・給食時は全職員が共通理解し、誤食が起らないようにアレルギー確認を口頭や視覚でわかるように工夫し取り組んだ。			A	A		・関係機関と連携を密にし、感染症等の対応を素早く行った。 ・基本的な生活習慣面の指導を強化することを推進する。 ・家庭との連携において感染予防の意識を高めることができた。 ・新任や転任の職員が、エビペン研修に参加し、緊急時の対応の意識を高めた。	・感染症等の情報はその都度、保護者に伝え感染を防ぐようにする。 ・手洗いの徹底や室内の換気等、衛生面の環境整備を心掛ける。 ・健康面で配慮が必要な子どもに対して、検温をこまめにし、体調の変化に気を配る。 ・全職員で配慮が必要な子どもを把握し、連携してケアしていく。	
		② 心のケアや健康相談の体制の整備							B					
		③ 健康観察、健康管理能力の育成							A					
	④ 関係機関との連携	A												
	⑤ 昼食（給食等）の衛生管理	A												
	(5) 地域との連携	① 園情報の発信		・小学校、中学校との連携を図る。 ・PTAと協力、連携する。 ・CSの会議や地域教育協議会、コーディネーター会議で園の取組を発信するとともに、地域のコーディネーターと連携し、地域力をいかした園の教育・保育を進める。 ・年3回の学校評議員会を開催し、参観や意見交流を行い、評価を仰いで、地域と連携して保育活動の改善に努める。	・様々なたより（園・都跡こども園ニュース・クラス・預かり保育・未就園児）を毎月発行し、園教育・保育の理解を求めた。 ・小学校へ行き、運動場でマラソンをさせていただいたり1年生との交流を通じて学校を知り、子どもが身近に小学校を感じ、親しみや憧れの気持ちちがをもつ姿につながった。 ・地域コーディネーターの協力を得て活動を実施することで、子どもたちは地域の方の来園を楽しみにしている。 ・学校評議員会やCS会議の場で、取組の発信、また参観の機会を経て、取り組みへの理解を得た。		A	A	・学校評議員に学期ごとに子どもの様子を参観していただき、参観後の評価や感想を聞いた。 ・保護者アンケート結果や、CS会議等で、園の取り組みに対して、高評価を得た。		・さらに、園教育・保育内容の取り組みについて、広く発信する。 ・ホームページを活用していく。 ・小中学校との連携し、また地域力をいかし、交流の機会も増やしていく、園児がさらなる豊かな経験ができるようにする。			
		② 園(保育)公開					B							
		③ 小学校との接続・連携					B							
		④ こ幼保との連携					B							
⑤ P T A ・保護者会の活性化		A												
⑥ 地域教育協議会との連携		A												
⑦ 学校関係者評価の実施		A												
(6) 施設・設備		① 保育環境の整備	・園内環境の整備は、改善が必要な箇所を出し合い課と相談しながら取り組む。 ・柔軟な発想による園内環境の工夫。 ・施設設備の安全点検。			・季節や子どもの遊びの状況に応じて園内環境の見直しをかけ、環境の整備や遊び遊具の改修を実施した。 ・毎月遊具の安全点検を行い、危険箇所はないか把握し、補修や整備を行った。	A			B		・毎月の安全点検や、日々の保育の中で危険な所はないかを意識しながら取り組むようにした。 ・施設内の不備な箇所については、課と連携し改善している。	・常に安全面の配慮を職員一人一人が心掛ける。 ・保護者からの意見を受け、環境を見直す。	
		② 施設設備の有効利用					B							
	③ 施設設備の管理	B												
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	・個人情報に関わるデータや、文書の管理を徹底する。 ・研修等に参加し、職員の意識を高める。	・保護者から預かっている個人情報や名簿、写真等、管理を徹底し、慎重に取り扱うように共通理解した。 ・個人の職員カード等についても危機管理意識をもち、紛失することのないように鍵付き棚に収納し、扱うように共通理解した。	A	A	・情報機器について扱い方や管理の仕方を職員間で確認した。職員の個人情報保護・管理に関する意識が向上した。 ・管理簿のチェックを行い、実施できているか確認した。	・引き続き研修等に参加し、個々に情報管理の意識を高まるようにすると共に、定期的に『情報セキュリティポリシー』を遵守できているか園内で確認する機会を設けていく。							
	② 公文書の作成			B										
	③ 個人情報の管理・保護			A										
	④ 情報の収集			B										
	⑤ 電子媒体の管理			A										